

## 広報・教育部門

応募事例名

# 推進工法・推進技術の普及啓発 -推進工法に特化した月刊専門情報誌が通巻400号を突破-

応募団体名) 公益社団法人日本推進技術協会

## 応募事例の概要

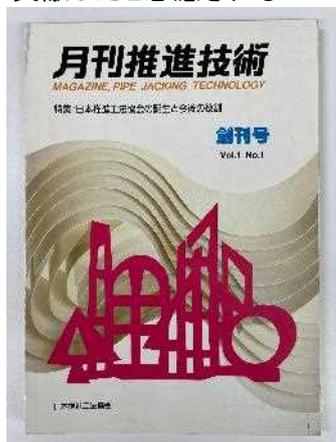
推進工法は社会地下インフラを効率的、経済的に構築する工法技術であり、我が国では、昭和23年(1948年)5月に鉄道軌道下を横断してガス管を敷設するために内径600mmの鑄鉄管を約6m推進工法で敷設したのが最初の施工である。

爾来、推進工法は、開発・改良が重ねられ、内径5,000mmの大口径管、1,000mを超える長距離施工、曲率半径15mの急曲線施工、既設管渠の改築推進工法など、下水道、上水道、工業用水、農業用水、ガス管、電力・通信線などの地下インフラの整備事業に欠かせない工法となっている。

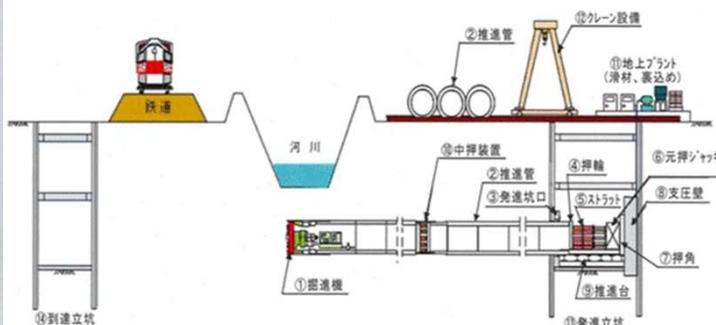
このような推進工法を普及、広報するために1987年(昭和62年)4月に発足した日本推進工法協会(1988年(昭和63年)10月に建設大臣認可の社団法人日本下水道管渠推進技術協会)の機関誌として「月刊推進技術」が同年6月に創刊され、2020年(令和2年)10月に通巻400号を達成した。

「月刊推進技術」創刊年度(1987年度)の下水道処理人口普及率39%であったが、2019年度末には、79.7%と大幅に増加した。この間、推進工法の発注延長は、毎年373km~1,290kmであり、道路等を掘削しない非開削工法として交通流や周辺環境に優しい工法として、また、開削工法では施工困難な河川横断、鉄軌道横断などに活用され、我が国の下水道整備に大いに貢献してきている。各号には、各時代の施工実態が反映され、下水道整備のための参考資料として地方公共団体に活用され、施工企業には現場における安全対策や効率的な施工を進めるための情報として大いに活用されてきた。

推進工法に特化した月刊専門情報誌として、通巻400号を達成し、下水道をはじめとする地下インフラ整備事業に貢献したと思慮されるので応募するものである。



創刊号の表紙



推進工法の概要



400号の表紙

## PRポイント

推進技術・推進工法に特化した月刊専門情報誌は、世界でも稀有な事例であり、推進技術の進歩に伴った新工法、新技術の情報発信、情報共有を行い、日本における推進工法の発展に貢献した。また、1987年6月の日本推進工法協会の機関誌として第1号を発刊以来、精力的な編集委員会に支えられ、2020年10月に通巻400号を達成した。



(公社)日本推進技術協会  
会長 中野 正明

## 取組みに関するエピソード

月刊推進技術編集委員会は、毎月開催され、最新号の完成報告、次号の初稿確認、次次号以降の進捗報告などが行われる。委員は、下水道行政経験者、地方公共団体発注・現場監督経験者、設計経験者、施工現場経験者、管材メーカ、掘進機メーカなど幅広い経験者で構成され、毎回、予定時間を超過する議論が重ねられています。